

<相田証言 2.>

「石岡繁雄の志を伝える会」は、毎年恒例にしている若山のケルン（奥又白谷）にお参りしており、2019 年も 6 月 1 日から石原兄チーフリーダーの弟の石原（福岡県在住。89 歳、若山とザイル切断直前にトップを交代した）も例年のとおり参加した。その際、湯浅本の内容に問題点が多いという岩稜会員（石原・森）と「石岡繁雄の志を伝える会」会員、計 8 人が宿泊先で同本に対する会議を持った。石岡のナイロンザイル事件に対する高井の考え、湯浅の岩稜会との関わり、高井と湯浅の関係についても今回の湯浅の出版と関わりがある、という話を我々は知ることとなった。また次のような事実が明らかになった。① 湯浅本の出版の 7 年前(2012 年 2 月 9 日)に、湯浅が澤田に本の原稿を持参。この原稿を読んだ澤田は「デタラメにすぎる。不正確であり、出版すべきでない」と湯浅に強く言った。② この結果、湯浅は澤田に対して、原稿の廃棄を約束した。③ 今回の出版に関しては、廃棄を約束したはずの前回の原稿に、著者が「新たな事実とする事項」が書き込まれている。④ 今回の出版に関して澤田は、湯浅から書かれた新たに書き加えられた事実の確認はもとより、前回の「原稿廃棄」の約束履行、出版についても聞かされていない。突然、自宅に本が届き驚いた。⑤湯浅の先輩の岩稜会員の中には、本が届けられていない人もいる。

会議の冒頭、石原は次のように言明した。「石原兄リーダーからの指示（湯浅は後述しているが、「昼までに第二テラスに行けなかったら引き返す」という内容）は、明確なものではなかった。前進か引き返すかは、現場のパーティの状況判断が優先されなければならない。私たちは引き返す事の危険と登攀を続けることの危険を比較。下るより登攀する方がより安全だという結論になったから登り続けた」